

歴史

今号の教科で対談！

歴史の授業を通して社会に出て必要な力をどう身に付けるのかを伺いました。

歴史を通して育てたい力は…

社会で起きる出来事が
自分と無関係ではないと
認識できる力。

牛久高校(茨城・県立)
進路指導部長
岡部真二先生

教員歴25年目。そのうち3年間は茨城県立歴史館に勤務。専門は江戸時代。

歴史を通して育てたい力は…

過去を知り未来を予測する力。歴史上の人物から学ぶ生きる力。

並木中等教育学校
(茨城・県立)
校長

中島博司先生
全国高等学校長協会教育課程研究委員長・常務理事。教員歴34年目。



教師が体験から得た実感を織り交ぜ臨場感を伝えたい

中島：今夏、大阪の真田丸を訪ねました。歴史的な出来事が起きた場所に立ち、その時代を生きた人々に思いを馳せることができるのが歴史の魅力。これまでに教科書に出てくる歴史的な場所にはほとんど行きました。

岡部：私は江戸時代を研究していて、地域の旧家を訪ね、当時の文書を読ませてもらい論文にまとめたりしています。あの時代の百姓や商人たちが書き記した文書を手にするたびに、現代の私たちに語りかけてくれているようで心が弾みます。江戸時代の庶民も私たちと同じ思いで暮らしていたことが伝わってくる。時代は違って人として変わらないものがあると気づかされます。

中島：その時代の人々の生き様を知ることができるのも歴史の面白さですね。そして教師が実際に体感したことが授業をより魅力的にする。教壇に立っていたときは、私の歴史探訪のエピソードを盛

り込むことで、生徒たちがあたかもタイムマシンに乗ってその時代の、その場所へ行った気分になれるような臨場感あふれる授業を心掛けていました。

岡部：教科書に沿って一つひとつの史実を丁寧に教えることも大事ですが、そこに「こういうことを伝えたい」という教師の思いが必要ですね。それがあかないかで、生徒の理解度も驚くほど変わってきます。

「なぜ？」と深く考えることで歴史が他人事ではないと学ぶ

中島：岡部先生はアクティブ・ラーニングを2年ほど前から実践されています。なぜ歴史の授業に取り入れようと思ったのでしょうか。

岡部：講義型のオーソドックスな教え方をずっとしながら、どうも違うなと感じていました。もっと歴史のダイナミズムや面白さを伝えたい、そのためにもっと生徒が夢中になれる教え方はないかと模索していた矢先、あるアクティブ・ラーニングの勉強

会に参加する機会を得ました。そこで、数学のアクティブ・ラーニングの授業を見せてもらったところ、生徒たちがみんな目を輝かせて授業に取り組んでいる。その姿に感動と衝撃を受けました。それで私もやってみようかと決めました。とはいえ、すぐ授業に取り入れる勇気はなく、夏休みの課題をグループで発表させたり、問題集をグループで解き、解説させたりといったことを実験的にやってみたら、すごく盛り上がったんです。「これなら大丈夫」と思い、授業でも行うようになりました。

中島：私が岡部先生の授業を見学したときは「ポーツマス条約でなぜ日本はロシアから賠償金を取れなかったのか」という課題で、大変感心しました。なぜならこれは教科書に載っていないことですし、正解のないことです。正解のない課題に、真摯に向き合うことで考える力は鍛えられます。

岡部：「なぜ？」と、自分の頭で考えることで、社会で起きる出来事が自分と無関係ではないと認識できるようになっていきます。従来型の授業より確

実に理解は深まっているという手応えを感じています。

中島：歴史的思考力があると、将来を見通せるようになる。だからこそ歴史は大事な科目なのですが、そこにアクティブ・ラーニングによる学びを加えることで、チームで何かを作り上げるスキル、自分はどう思うかを伝える力も伸ばせそうですね。

岡部：そうですね。温故知新という言葉があるように、過去の偉人たちの生き様を学び、そこで得た感動や共感、必ず自分の人生に生かせる。それをぜひ生徒にも認識してほしいという思いがあります。

中島：私は明治初期の若者たちが好きなんです。身分社会から解き放たれて、自分の力で立志を目指した。彼らは本当に死にものぐるいで勉強し、新しいことにもどんどん挑戦しました。そんな明治の若者たちの姿に刺激を受けて、今の生徒たちにも学ぶことで将来を切り拓いてほしい。そんな風に生き方のヒントを歴史の中から見つけてもらいたいものです。